

シミュレーションとゲーミング	戦争と平和の社会心理学年報	8	42
*国際体系論の基礎	(東大出版会)		44
*危機の認識	福村出版		44
* * A・ラパポート 現代の戦争と平和の理論(編訳)	岩波書店		44
アジアをめぐる国際体系の変動 —シミュレーションに関する中間報告— (日本政治学会1969年年報、国際緊張緩和の政治過程)	(岩波書店)		45
*行動科学入門(共著)	講談社		45
*70年代の国際関係	ペリカン社		45
国際体系の Simulation Game 建設の方法 (鈴木光男編『競争社会のゲームの理論』)	(勁草書房)		45
*危機の深みに立って	ダイヤモンド社		45
国際体系における貿易と通信 —シミュレーションによる研究— (日本国際政治学会『国際政治の理論と方法』)	(有斐閣)		45
進む軍事経済多極化の中の貿易政策	週刊東洋経済		45-2~5
日本帝国主義と東アジア	岩波講座世界歴史現代3		45
ヒロシマの世界化に向って—ヒロシマ会議本会議の討論をふりかえる—	世界		46
* * T.C.シェリング ゲーム理論とは何か オリヴァー・ベンソン 政治学における数学的アプローチ、チャールスウース編、田中靖政・武者小路公秀編訳	「現代政治分析」第二冊(岩波書店)		46
国家間関係の分析方法	(別冊経済評論全面特集=社会科学への招待)		46
Simulation of the International System —Review of the Results of Two Pilot Runs in Japan	Northwestern Univ. Mimeo		41-8
Tward an N-Generation Model of International Process Simulation Theory	Northwestern Univ. Mimeo		41-11
Japanese Foreign Policy since the Meiji Era: A Model	Australian National Univ. Mimeo		42
Systems of Power Balance and the Preservation of Peace	Journal of Social and Political Ideas in Japan	V, 1	42-4

Toward a New Analysis of Deterrence in World Politics	Peace Research in Japan (The Japan Peace Research Group)	43
International Environment and the Postwar Japanese Diplomacy	The Developing Economics	VI—4 43—12
Towards Building an Analogue Model for Integration Theory in Interna- tional Politics-A Non-Operationalized View for an Analysis of Nationalism in Japan—	Peace Research in Japan (The Japan Peace Research Group)	44

山崎利男

ヒンドゥー教	淡交社	45—11
* * コーサンピー インド古代史	岩波書店	41—11
1955—56年ヒンドゥー法改正の歴史的意 義	「仁井田陞博士追悼 記念論文集 II」 (勁草書房)	41—11
マイトラカ朝の土地施与文書	東洋文化研究所紀要	43 42—3
4—12世紀北インドの村落・土地の施与	松井透・山崎利男編 「インド史における 土地制度と権力構造」(東大出版会)	44—10
南アジア世界の形成・総論	岩波講座『世界の歴史』 3	45—1
クシャーン朝とグプタ帝国	同上	45—1
ヴィシュヌシェーナの592年碑文にみえ る法規定	東洋文化 50・51	46—3
11—13世紀北インドの国家と社会	岩波講座『世界歴史』 13	46—5

松井透

* Indian Economy in the Nineteenth Century : A Symposium (共著)	Indian Economic and Social History Association	44
* インド史における土地制度と権力構造 (共編著)	東大出版会	44—10
A Methodological Consideration on Modern Indian History	Quarterly Review of Historical Studies	6—2 44
19世紀インド経済史研究の方法論的検討 —M·D·モリスの所説をめぐって—	アジア研究	13—4 42—1

ウィリアム・ショーンズのインド論とイ ンド統治論	東洋文化研究所紀要	44	42-11
On the Nineteenth-Century Indian Economic History-A Review of a Reinterpretation	Indian Economic and Social History Review	5-1	43-3
「インド村落共同体論」について	アジア経済研究所 資料調査研究	43-12	43-7
近代西欧のアジア観と植民地支配論 —イギリスのインド支配をめぐって—	思想	530	43-8
イギリス帝国主義とインド社会 —鉄道建設を焦点にして—	岩波講座世界歴史	22	43-8
19世紀後半のインドにおける鉄道建設を めぐる諸問題	アジア経済研究所 資料調査研究	44-18	44-10
インドの植民地化	岩波講座世界歴史	16	45-3
British Views of India and Arguments on the Raj-An Essay towards a Theoretical Framework	The Developing Economies	8-2	45-6
初期のベンガル統治とウィリアム・ボル ツ	東洋文化	50, 51	46-3
ムガル支配期の農村社会と支配体制	岩波講座世界歴史	13	46-5
鎌田茂雄			
道性思想の形成過程	東洋文化研究所紀要	42	41-11
華厳経普賢觀行法門について	駒沢大学仏教学部 研究紀要	25	42-3
仏性と道性	印度学仏教学研究	15-2	42-3
道藏本『無生訣経』にあらわれた禅宗資料	宗学研究	9	42-3
妄尽還源觀の思想史的意義	南都仏教	20	42-6
中国の華厳思想	「講座東洋思想6」 (東大出版会)		42-8
臨済禪	「講座東洋思想10」 (東大出版会)		42-9
中国仏教の成立	「中国文化叢書6」 (大修館)		43-1
三論宗・牛頭禪・道教を結ぶ思想的系譜 —草木成仏を手がかりとして—	駒沢大学仏教学部 研究紀要	26	43-3
初唐における三論宗と道教	東洋文化研究所紀要	46	43-3

空觀の中国的変異	印度学仏教学研究	16—2	43—3
玄珠錄の思想	宗教研究	194	43—3
初期禪宗の老莊批判	宗学研究	10	43—3
*中国佛教思想史研究	春秋社		43—3
*無限の世界観〈華嚴〉(上山春平氏と共に著)	角川書店		44—1
華嚴五教章	「日本の仏典」 (中央公論社)		44—2
道教經典にあらわれた唯心説	駒沢大学仏教学部 研究紀要	27	44—3
中国禪思想形成の教学的背景 ——大乘起信論を中心として——	東洋文化研究所紀要	49	44—3
玄珠錄にあらわれた佛教思想 ——仏道両思想の交流をめぐって——	中(道)国教専誌号	5	44—4
隋唐時代における儒仏道三教	歴史教育	17—3	44—7
法界義鏡の教理史的意義	禅学研究	58	45—3
華嚴法界義鏡について	宗教研究	43—3	45—3
中国華嚴学よりみた法界義鏡の特質	東洋文化研究所紀要	52	45—3
中国佛教の展開と東アジア佛教圏の成立	岩波講座世界歴史		46—1

山田三郎

Changes in Output and in Conventional and Non-conventional Inputs in Japanese Agriculture Since 1880	Food Research Institute Studies (Stanford University)	7—3	43—6
Technological Progress in Agriculture (共同論文)	Economic Growth, The Japanese Experience Since The Meiji Era (Yale University)		43—6
農業生産性向上の経済的課題	「農業生産性向上の諸問題」(明治学院大学)		43—6
志和地区構改事業の成果	「農業構造改善事業実施地区実態調査報告書」(農林省農政局)		43—7
調査に見た構改事業の問題点	同上		43—7
錫需給の変動とそのメカニズム	アジア経済	9—10	43—10
日本農業の技術革新と生産構造の変化	「技術革新と日本農業」(大明堂)		44—1

農業制度資金投資効果の内容	「農業制度資金の投資効果に関する調査—やさい・花卉・果樹編一」(神奈川県農政部)	44-2
経営部門別資本利回りと投資効果 —生産関数分析—	同 上	44-2
Agricultural Productivity at the Beginning of Industrialization (共同論文)	Agriculture and Economic Growth: Japan's Experience (University Tokyo Press)	44-3
集団投資参加農家の性格と投資の経営諸類型に及ぼす効果	「土地基盤整備事業の個別農業経営に及ぼす影響に関する研究」(農林漁業金融公庫)	44-3
* Productivity Measurement Mannel (共著)	Asian Productivity Organization	44-8
* カロリー摂取水準の計測1874~1942 (共著)	総合基礎資料 (農業総合研究所)	4 44-10
* 食糧消費の水準と構造の長期変化 (共著)	「特研」研究資料 (農業総合研究所)	2 44-12
食管制度と農家経済	「食糧管理史総論III」 (食糧庁)	44-12
神奈川県農業の動向と制度資金効果	「農業制度資金の投資効果に関する調査—農地取得及び経営類型別総括編一」 (神奈川県農政部)	45-2
神奈川県市町村別農業経営類型と制度資金の効果	同 上	45-2
工業化の始発期における農業の生産性 (共同論文)	「日本農業と経済成長」 (東大出版会)	45-7
* The Measurement and Promotion of Productivity for the Third National Economic and Social Development Plan of Thailand 1972~1976	Asian Productivity Organization	46-2
* 韓国工業化の課題 (編著)	アジア経済研究所	46-3
最近の構造政策	「農業政策講義」 (青林書院新社)	46-4

松丸道雄

殷周国家の構造	岩波講座世界歴史	4	45
殷周金文の真偽問題	史学雑誌	79	45

高橋彰

インド農業労働者層の社会経済的性格	「アジアの土地制度と農村社会構造」 (アジア経済研究所)		43—12
地理学における外国研究の方法	地理	14—1	44—1
日本におけるフィリピン研究(1889—1969)	アジア経済	10—6, 7	44—7
バリオ・カトリナン ——フィリピンの米作農村——	「アジアの農村」 (東大出版会)		44—8
* Land and Peasants in Central Luzon Socio Economic Structure of a Philippine Village	East-West Center Press		45

黒田和彦

メソポタミアにおけるイスラム文化	Museum	193	42—4
ヌジ土器について	考古学雑誌	53—1	42—6
転換期の諸問題	史潮	100	42—12
ハンムラビ時代の国家と社会	岩波講座世界歴史	1	44—5
バビロン第I王朝の軍事組織	東洋文化研究所紀要	53	46—2

山之内正彦

李商隱 表現考・断章一詩を中心として—	東洋文化研究所紀要	47	44—3
---------------------	-----------	----	------

長崎暢子

インド農村の現状 ——東U.P.の一村を中心として——	経済と外交		42
1857年の反乱における権力問題の一側面 「インド史における土地制度と権力構造」	東大出版会		44—1
1857年の反乱におけるラクナウ政権の構造	東洋文化研究所紀要	50	45—3
1857年の反乱におけるシャーハーバード 政権の構造	東洋文化研究所紀要	55	46—3

1857年の反乱に関するファスレニハクの 回想録	東洋文化	50, 51	46—3
セポイの反乱	岩波講座世界歴史	21	46
松谷敏雄			
泉靖一編「オンコロマナイ」分担執筆	人文科学科紀要	1	42
メソポタミア考古学文献解題	文化人類学研究報告		
シャルモ期の編年に対する疑問	ミューゼアム4月号		42—4
初期農耕村落の研究 ——テル・サラサート第2号丘最下層の文 化史的位置づけ——	オリエント	3, 4	43
* 「テル・サラサートⅡ」(共著)	東洋文化研究所紀要	47	44—3
	東京大学イラク・イ ラン遺跡調査団報告Ⅱ		45—10
浜島敦俊			
明代江南の水利の一考察	東洋文化研究所紀要	47	44—3
明末浙江の嘉湖両府における均田均役法	東洋文化研究所紀要	52	45—3
加藤祐三			
土地改革前の中国農村社会	アジア経済		43—12
中国政治経済史雑考(1)(2)	アジア経済研究所		44—10
土法の回復——中国における自然と人間—— 『われわれにとって自然とはなにか』	(社会思想社)		45
満州事変と東アジア ——日本の満州侵略と中国——	岩波講座世界歴史	27	46
中国革命と東アジア	講座日本史 (東大出版会)	8	46
学問と植民地支配にかんする覚え書(1) ——近代日中関係史への序論——	東洋文化研究所紀要	54	46—3
江島恵教			
中観論者を虚無論者とする批判 ——それに対する中観派の反論——	東方学	34	42—6
「般若燈論」における推論式の一断面	印度学仏教学研究	16—2	43—3
Bhāvaviveka の聖典觀	印度学仏教学研究	17—2	44—3

Bhāvaviveka の小乘聖典批判	印度学仏教学研究	18—2	45—3
寂天における空性の問題	宗 教 研 究	202	45—3
Bhāvaviveka 研究 —空性論証の論理を中心として—I	東洋文化研究所紀要	51	45—3
Atias の無自性性論証	印度学仏教学研究	19—1	45—12
Bhāvaviveka 研究 —空性論証の論理を中心として—II	東洋文化研究所紀要	54	46—3
Kamalāśīla の無自性性論証	東 方 学	41	46—3

池 端 雪 浦

1966年の歴史学界回顧と展望	東南アジア史学雑誌	76—5	42—5
<フィリピン民族史>の主体的構成	ア ジ ア 研 究	14—3	42—10
東南アジア研究をとりまく現状に思うこと	東 洋 文 化	45	43—3
José Rizal: The Development of National View of History and National Consciousness of the Philippines	Developing Economics	VII—2	43—6
フィリピンにおけるモノカルチャエ経済 成立の史的考察	ア ジ ア 経 済	11—4	45—4
香料への道—ポルトガル、スペインの進出 と東南アジア—	「日本と世界の歴史」 (学習研究社)	13	45—9
東南アジア基層社会の一形態—フィリピンのバランガイ社会について—	東洋文化研究所紀要	54	46—3
十九世紀の東南アジア社会 —フィリピン社会の経済変化と革命—	岩波講座世界歴史 (岩 波 書 店)	21	46—8

青 木 保

実地調査の役割をめぐって	東 洋 文 化	45	43
象徴的二元論と構造分析	理 想	11	43
未開社会と「近代の起点」	岩波哲学講座月報	10	43
千年王国論とラディカリズムの伝統	中 央 公 論		44—1
滅びゆく文化と現代世界	展 望		44—9
教祖キウリ	伝 統 と 現 代		44—10
千年王国論 I	中 央 公 論		45—2

千年王国論II	中央公論	45—3
始原論と終末論	海	45—6
幻想と現実——ユートピアの可能性——	海	45—8
儀礼空間とユートピア	海	45—9
日常世界を超えるもの ——人類学的認識論の試み—— 『われわれにとってユートピアとは何か』	(社会思想社)	46
* * レヴィニストロースの世界(共訳)	みすず書房	43
* * E. R. リーチ 時間の象徴的表徴に 関する二つのエッセイ	「未開と文明」 (平凡社)	43
* * A. マックグラッシャン「野蛮で美しい国」	未開と文明	43
* * K. ガフ 人類学と第三世界	展望	44—9
* * E. R. リーチ エデンの園のレヴィ ニストロース	ユリイカ	45—11
* * E. J. ホグズボーム 反抗の原初形態	(中公新書)	·

蜂屋邦夫

莊子逍遙遊篇をめぐる郭象と支遁の解釈 ——併せて支遁の仏教理解について——	東京大学教養学部紀要『比較文化研究』	8	43—3
心無義説小論	東京大学教養学部紀要『比較文化研究』	9	44—3

佐藤次高

rawk 論序説——フサーミ検地の場合——	西南アジア研究	18	42—6
国家と宗教について	アジア文化研究	1	43—1
カイロの繁栄	イスラム世界		43—11
マムルーク朝国家の構造	(『イスラム化』にかんする共同研究報告)	2	44—3
マムルーク朝におけるイクター制の展開 ——ナースィル検地の分析を中心として——	史学雑誌	78—1	44—1
西アジアにおける中世イスラム国家の成立	アジア文化研究		44—3
イスラム封建制度論	岩波講座世界歴史	8	44—10
アイユーブ朝・マムルーク朝時代の土地 制度	(『イスラム化』にかんする共同研究報告)	3	45—5

E 研究会

昭和 41 年

- 第 681 回 (10月 6 日) 過渡期社会における階級と階級闘争 菅 沼 正 久
人民公社における階級闘争 福 島 裕
- 第 682 回 (10月 13 日) プロレタリア文化大革命 福 島 正 夫
- 第 683 回 (10月 20 日) 古墳文化の起源論の最近の動向 甘 純 健
- 第 684 回 (10月 27 日) 沖縄の調査報告 中 根 千 枝
小 口 偉 一
窪 德 忠
- 第 685 回 (11月 10 日) 岡倉天心論 生 松 敬 三
- 第 686 回 (11月 15 日) 正統と異端 丸 山 真 男
- 第 687 回 (11月 17 日) 宗教団体の事業と財政について 井 門 富二夫
- 第 688 回 (12月 1 日) フィリピンの土地改革について 滝 川 勉
- 第 689 回 (12月 8 日) 民族系譜からみた華南史の構成 白 鳥 芳 郎
成吉思汗勃興以前のモンゴル部族社会の構
造 村 上 正 二
- 第 690 回 (12月 15 日) インドシナにおける伝説ならびに儀礼にあ
らわれた先住民と後來民との関係 大 林 太 良
マラヤの経済と社会——その多重構造と經
済発展上の諸問題 山 田 三 郎

昭和 42 年

- 第 691 回 (1月 19 日) エジプト政党史の諸問題 板 垣 雄 三
- 第 692 回 (1月 26 日) ターク・イ・ブスターの調査 深 井 晋 司
デーラマン地方の調査——中国出土の三足
土器との関連について 三 宅 俊 成

北メソポタミアにおける先史農耕村落址の 調査	松 谷 敏 雄
第693回（2月2日）イラン高原における先史農耕村落址の調査	曾 野 寿 彦
西アジア遺跡調査十年の成果について	江 上 波 夫
第694回（2月9日）インド「封建制」成立について	山 崎 利 男
第695回（2月16日）東西文明比較論と植民地支配	松 井 透
第696回（3月2日）パキスタンの1962年憲法について ——イスラム条項と東西両州をめぐる問題	荒 松 雄
第697回（3月9日）フィリピン革命の性格	池 端 雪 浦
第698回（4月20日）インド中觀学派における空 吉藏の八不中道觀	江 島 恵 教 泰 本 融
第699回（4月27日）道教經典にあらわれた空 天台における空仮觀	鎌 田 茂 雄 塩 入 良 道
第700回（5月4日）旧小説の世界（共同課題） 神魔小説付靈徑	木 山 英 雄
人情小説付煙粉	尾 上 兼 英
第701回（5月11日）唐代の詩と詩人（共同課題） 貶謫の詩人たち	前 野 直 彬
李商隱詩の一側面——その「恋愛」について て	山之内 正 彦
第702回（5月18日）太平天国革命諸問題	小 島 晋 司
第703回（5月25日）洋務運動の一側面	中 村 義
第704回（6月1日）南宋院体画について	鈴 木 敬
第705回（6月8日）金代絵画に関する二、三の問題	戸 田 稔 佑
第706回（6月15日）文化大革命と中国研究	菅 沼 正 久

- 第707回（6月22日）社会主義建設の論理と「社会主義経済学」
——プロレタリア文化大革命についての一
視角——…………平野絢子
- 第708回（6月29日）新中国の経営管理方式について……佐伯有一
- 第709回（9月14日）古墳時代の終末に関する諸問題……甘粕健
- 第710回（9月21日）日本におけるバハイズム……小口偉一
昭和10年代の日本文化論—和辻哲郎を中心
に——…………生松敬三
- 第711回（9月28日）政教分離の諸問題——日文の文化的
背景の相違をめぐって——…………井門富二夫
仏教小集団の独立過程——明治前期の一事
例について——…………森岡清美
- 第712回（10月5日）土地改革の概念……滝川勉
台湾工業化の条件……川野重任
- 第713回（10月12日）朝鮮の親族構造の問題点……泉靖一
近世チベット貴族層の展開……中根千枝
- 第714回（10月19日）アジアにおける錫の生産とその問題点……山田三郎
パキスタンを尋ねて……逸見謙三
- 第715回（10月26日）清初の滿州族社会の諸問題……神田信夫
モンゴル遊牧国家の性格……村上正二
- 第716回（11月2日）「地域社会」の調査研究をめぐる問題点
——イランの農村の事例——…………大野盛雄
- 第717回（11月16日）「アラブ社会主義」の階級認識……板垣雄三
「アラブ社会主義」の経済体制……中岡三益
- 第718回（11月30日）古代メソポタミアにおける日乾煉瓦……堀内清治
インド仏教にみられる西アジア的要素——

特に「燃燈仏本性と弥勒菩薩」の造形的表

現を中心について 杉山二郎

第719回（12月7日）古代バビロニアにおける「中間期」について

..... 黒田和彦

第720回（12月14日）ムスリム支配期インドの土地制度にかんす

る最近の研究について 松井透

昭和43年

第721回（1月18日）インドから帰って 長崎暢子

イギリスの対インド帝国主義支配をめぐる

諸問題 中村平治

第722回（1月25日）大戦下におけるインドの経済過程 古賀正則

第723回（2月1日）アリカ碑文の周辺 橋本秀一

第724回（2月8日）英國のマラヤ支配とサルタン制 築島謙三

第725回（2月15日）明代里甲制の編成について 小山正明

明末清初賦役改革の政治過程 浜島敦俊

第726回（2月22日）宋代官僚と商業——中世的デスティズム

の成立に関連して 柳田節子

第727回（2月29日）春秋末期の「叛」 小倉芳彦

第728回（4月18日）巨然画の諸問題 戸田禎佑

第729回（4月25日）中国思想史研究における一つの視点——戴

震をめぐって 溝口雄三

第730回（5月2日）中国演劇の下部構造 田仲一成

第731回（5月9日）アジア現代史における民族解放と冷戦 加藤祐三

第732回（5月16日）1920年代初頭の朝鮮民族解放運動と日本帝

国主義 姜徳相

梶村秀樹

- 第733回（5月23日）国防文学論争について……………丸山 昇
- 第734回（5月30日）ワシントン会議と中国の民族運動……………藤井 昇三
- 第735回（6月6日）開発途上国の政治変動と国際環境
1. 政治変動研究の方法論……………関 寛治
2. 政治変動の数量的研究……………高畠 通敏
- 第736回（6月13日）敬語および敬語調査と社会……………野元 菊雄
- 第737回（6月20日）インダストリアル・ステートにおける宗教
活動——比較文化論への宗教からのアプローチ……………井門 富二夫
- 第738回（7月4日）儀式構造論の問題……………柳川 啓一
- 第739回（9月19日）セイロン経済の構造……………川野 重任
- 第740回（9月26日）農業発展の要因と経済の均衡成長
——台湾の事例を中心として……………山田 三郎
- 第741回（10月3日）マラヤのコミニナリズムと国民的統合……………萩原 宜之
- 第742回（10月17日）開発途上国の比較分析モデル……………高柳 先男
比較発展の時系列分析……………関 寛治
- 第743回（10月24日）クレーシー教授講演会……………
- 第744回（10月31日）ペルシア系イスラーム建築におけるヴォーリティングの問題……………石井 昭
- 第745回（11月21日）ハンムラビ時代の社会階層について……………黒田 和彦
比較文化論の試み——イスラム教徒のむらの実態調査の体験を通して……………大野 盛雄
- 第746回（11月28日）シンポジウム「地域研究の諸問題」……………
- 第747回（12月5日）西アジアにおける中世国家の成立……………佐藤 次高
- 第748回（12月12日）4—12世紀北インドとデカンの銅板文書にみえるバラモンについて……………山崎 利男

- 第749回（12月19日）インドにおける1857年の反乱について…………長崎暢子
昭和44年
- 第750回（1月16日）萌芽期におけるフィリピンナショナリズム
——ホセ・リサールの民族史観と民族意識
を中心として…………池端雪浦
- 第751回（1月23日）インドの都市人口
——センサスの研究…………アシシュ・ボース
マラッカ王国における国家権力形成の過程…………生田滋
- 第752回（1月30日）江南における均田均役法の一考察…………浜島敦俊
- 第753回（2月6日）華南村落の変革…………佐伯有一
- 第754回（2月13日）二諦説について…………江島恵教
- 第755回（2月20日）日本における中国宗教の受容
——儒教を中心として…………野田幸三郎
- 第756回（2月27日）15世紀末における生業、政治組織、宗教の
諸形態について…………泉靖一
- 第757回（3月6日）都市の人類学的研究の諸前提——東南アジア
の事例を中心として…………青木保
近世チベット政治構造について…………中根千枝
京都大学人文科学研究所との交換研究会
- 42年6月20日 元代散曲における詠物詩の展開…………田中謙二
43年6月27日 元朝の制度におけるモンゴル的要素…………岩村忍

F 東洋文化研究所紀要

第41冊（昭和41年10月）

- 日清戦役をめぐる国際関係…………植田捷雄
セイロンの国民所得をめぐって…………橋本秀一

- 元代李郭派山水画風についての二、三の考察 鈴木 敬
 朝鮮の郡協同農場経営委員会について 梶村 秀樹
 タイ国北西部の Lava 族の葬制 大林 太良
- 第 42 冊 (昭和41年11月)
- 全真教の成立 塙 徳忠
 道性思想の形成過程——仏道両思想の交流をめぐって—— 鎌田 茂雄
 吉藏における中觀思想の形態——基礎的研究(一) 泰本 融
 中国仏教における仏名經の性格とその源流 塩入 良道
 「マレー人は怠惰である」ということについて 築島 謙三
 戦争末期における北満 飯塚 浩二
- 第 43 冊 (昭和42年3月)
- ヒンドゥ「家族」の実態とその構造分析 中根 千枝
 三花馬・五花馬の起源について 深井 晋司
 太平天国の歴史的位置づけに関する諸問題（上） 石田 米子
 「牧民官」の姿勢、危機と仕える人の健気さ
 ——満蒙旅行のリポート・終篇 飯塚 浩二
 マイトラカ朝の土地施与文書 山崎 利男
 飯塚浩二教授 略歴・著作目録
 江上波夫教授 略歴・著作目録
 福島正夫教授 略歴・著作目録
 米沢嘉圃教授 略歴・著作目録
- 第 44 冊 (昭和42年11月)
- 明代白話小説ノート——短編小説・「三言」(一) 尾上 兼英
 ウィリアム・ジョーンズのインド論とインド統治論 松井 透
 イラン農村の社会経済構造の研究
 ——第四部エプラーヒームアーバード (ニーシャープウル)

- の例——.....大野盛雄
デリーに現存するサルタナット時代のバーオリーの遺跡について——サルタナットの首都デリーとその遺跡に関する歴史学的研究（V）——.....荒松雄
第 45 冊（昭和43年3月）
三孔布釈疑.....関野雄
九品中正制度の成立をめぐって
——魏晋の貴族制社会にかんする一考察——.....堀敏一
1601年「織傭之変」をめぐる諸問題.....佐伯有一
四川保路運動——その前夜の社会状況——.....西川正夫
社会主義社会の過渡的性格
——プロレタリア文化大革命論序説——.....菅沼正久
過渡期階級闘争の理論
——プロレタリア文化大革命と関連して——.....福島正夫
ギラーン州出土の二重円形切子装飾瑠璃碗に関する一考察
——京都上賀茂出土の瑠璃碗断片に対する私見——.....深井晋司
第 46 冊（昭和43年3月）
老子八十一化説について——陳致虚本の存在をめぐって——.....窪徳忠
初唐における三論宗と道教.....鎌田茂雄
吉藏の八不中道観——『中觀論疏』因縁品を中心として——.....泰本融
「空」の中国的理解と天台の空観
——中国偈の取り扱いをめぐって——.....塩入良道
李朝末期朝鮮の纖維製品の生産及び流通状況
——1876年開国直後の綿業のデータを中心に——.....梶村秀樹
第 47 冊（昭和44年2月）
明代江南の水利の一考察.....浜島敦俊

社会主義社会の過渡的性格

- プロレタリア文化大革命論序説—— 菅 沼 正 久
初期農耕村落の研究——テル・サラサート第二号丘最下層の文
化史的位置づけ—— 松 谷 敏 雄

第 48 冊

- 李商隱表現考・断章——豔詩を中心として—— 山之内 正 彦
「孟子字義疏証」の歴史的考察 溝 口 雄 三

第 49 冊

- 陽虎と公山不狃——春秋末期の「叛」 小 倉 芳 彦
中国禪思想形成の教学的背景
——大乗起信論を中心として—— 鎌 田 茂 雄
マレー人における自治の心理 築 島 謙 三
アゼルバイジャン地方出土の鎧の押型について
——アキナケース形短剣に関する一研究 深 井 晋 司

第 50 冊 (昭和45年3月)

- パルティア期における馬の造形表現
——ギラーン州出土の馬形装飾化粧棒について—— 深 井 晋 司
1857年の反乱におけるラクナウ政権の構造 長 崎 暢 子
戊戌・庚子前後の章炳麟の思想
——<革政>から<革命>へ—— 高 田 淳
ワシントン会議と中国の民族運動 藤 井 昇 三

第 51 冊 (昭和45年3月)

- マレー人における自治の心理——5.13暴動に関連して—— 築 島 謙 三
海外における朝鮮独立運動の発展 姜 徳 相
Bhāvaviveka 研究——空性論証の論理を中心として—— 江 島 恵 教

第 52 冊 (昭和45年3月)

英国人の見た日本人——明治以前について——	築島謙三
中国華嚴学よりみた法界義鏡の特質	鎌田茂雄
明末浙江の嘉湖両府における均田均役法	浜島敦俊
インド連邦政府首相選出の決定過程 ——1964年66年および67年のケース——	森利一
	小口偉一教授 略歴・著作目録
	橋本秀一教授 略歴・著作目録

第 53 冊 (昭和46年2月)

金餅考——戦国・秦漢の金貨に関する一考察——	関野 雄
パルティア期における青銅製小動物像について	
——ハッサニ・マハレ第4号墓出土のアカ鹿像の年代決定に 関する訂正について——	深井晋司
ガザーリーの神秘修業論	
——Dhikv と Du“ā”を中心として——	中村 広治郎
バビロン第一王朝の軍事組織	黒田 和彦

第 54 冊 (昭和46年3月)

学問と植民地支配にかんする覚え書	
——近代日中関係史への序論——	加藤祐三
東南アジア基層社会の一形態	
——フィリピンのバランガイ社会について——	池端雪浦
Bhāvaviveka 研究——空性論証の論理を中心として (承前)	江島 恵教

G 本学への教育参加

1 大学院

(1) 人文科学研究科

(氏名)	(専門課程)	(題目)
尾上教授	中国語中国文学	近世小説の研究
荒教授	東洋史学	インド史における宗教と政治
佐伯教授	東洋史学	中国近代史をめぐる諸問題
	東洋史学	東洋史上の諸問題
山崎助教授	東洋史学	インド法典史研究
池田助教授	東洋史学	中国古文書の研究
鎌田助教授	印度哲学	中国仏教文献講読
窪教授	宗教学宗教史学	中国宗教史上の一問題
中村講師	宗教学宗教史学	イスラーム研究の諸問題
鈴木教授	美術史学	中国山水画の諸問題
深井教授	美術史学	西アジア美術史演習
戸田講師	美術史学	中国人物画演習

(2) 法学政治学研究科

(氏名)	(専門課程)	(題目)
関教授	政治学	現代アジアの国際政治

(3) 社会学研究科

(氏名)	(専門課程)	(題目)
松井助教授	国際関係論	インド近代史演習
中根教授	文化人類学	社会構造の比較研究
	"	文化人類学実験及び実習
	"	文化人類学研究指導

(4) 理学系研究科

(氏名)	(専門課程)	(題目)
大野教授	地理学	地理学演習
高橋助教授	地理学	アジア地誌研究
	"	ヨーロッパ地誌研究

(5) 農学系研究科

(氏名)	(専門課程)	(題目)
川野教授	農業経済学	国際農業論特論
	"	農業経済演習
山田助教授	農業経済学	農業発展論
2学部		
(1) 文学部		
中根教授		文化人類学
松丸助教授		甲骨学入門
山崎助教授(併任助教授)		南方史
戸田講師		宋元の人物画
(2) 教養学部		
中根教授	教養学科	文化人類学
大野教授	教養学科	世界地誌第一
蜂屋助手		中国の宗教思想の研究
川野教授	教養学科	経済発展論
高橋助教授	教養学科	世界地誌第二
関教授		国際関係論
青木助手	教養学科	未開人の世界観
(3) 経済学部		
大野教授		経済地理

(4) 理 学 部

中 根 教 授

文化人類学第二

3. 全学一般教育ゼミナール

佐 伯 教 授

中国革命の諸問題

大 野 教 授

アジアの農民と農村

H 海外との交流

外 国 出 張

出 張 先 国

出 張 期 間

大 野 盛 雄	イラン, アフガニスタン, イラク, アラブ連合, 西ドイツ, フランス, イタリア, スペイン, ポ ルトガル, 連合王国, 米国, カナダ, ブラジル	41. 3~42. 3
小 口 偉 一	西ドイツ, 連合王国, ソ連, イラン, トルコ, アラブ連合	42. 4~42. 6
小 口 偉 一	沖 縄	42. 11~42. 12
窪 徳 忠	沖 縄	42. 11~42. 12
鎌 田 茂 雄	沖 縄	42. 11~42. 12
中 根 千 枝	沖 縄	42. 11~42. 12
窪 徳 忠	沖 縄	44. 4~44. 5
中 根 千 枝	米 国	44. 4~44. 5
窪 徳 忠	香港, イギリス, フランス	44. 6~44. 9
泉 靖 一	米国, メキシコ, グァテマラ, コロンビア, カナダ, エクアドル, ボリビア, チリー, ブ ラジル, アルゼンチン, ペルー	44. 7~44. 10
高 橋 彰	米国, 連合王国, フランス, イタリア, アラ ブ連合, イラン, パキスタン, インド, タイ,	

		シンガポール, インドネシア, 南ベトナム, フィリピン, 香港	44. 9~46. 4
窪 徳 忠	沖 繩		44. 11
鎌 田 茂 雄	沖 繩		44. 11
深 井 晋 司	香港, イラク, イラン, レバノン, トルコ	44. 12~45. 1	
黒 田 和 彦	香港, イラク, イラン, レバノン, ヨルダン, シリア, アラブ連合, トルコ, 西ドイツ, フ ランス, 連合王国	44. 12~45. 4	
佐 藤 次 高	香港, イラク, イラン, レバノン, ヨルダン, シリア, アラブ連合, トルコ, 連合王国	44. 12~45. 12	
山 田 三 郎	タイ, インド	45. 1~45. 3	
中 根 千 枝	米 国	45. 2~45. 3	
大 野 盛 雄	アフガニスタン	45. 6~45. 11	
築 島 謙 三	デンマーク, 連合王国, フランス, 西ドイツ, スイス, イタリア	45. 7~45. 8	
中 根 千 枝	米 国	45. 8	
窪 徳 忠	香港, マカオ	45. 9~45. 10	
鎌 田 茂 雄	香港, マカオ	45. 9~45. 10	
山 田 三 郎	タ イ	45. 10~46. 2	
窪 徳 忠	沖 繩	45. 12	
松 谷 敏 雄	イラク, イラン, トルコ, ハンガリー, シリ ア, ヨルダン, レバノン, オーストリア, 西 ドイツ, デンマーク, 連合王国, フランス, イタリア, アラブ連合	46. 2~46. 10	
関 寛 治	米国, 西ドイツ	46. 5~46. 7	
川 野 重 任	沖 繩	46. 6	

荒 松 雄 パキスタン, アフガニスタン, インド 46. 7~46. 9
 長 崎 暢 子 パキスタン, アフガニスタン, インド 46. 7~46. 9

外国人研究員

氏 名	国 種	指導教官	研究課題	期 間
Muzaffer, Çetinkaya	トルコ	中 根 教 授	社会人類学	42~43
李 塚 眇	韓 国	関 門 教 授	日 中 関 係	42~43
李 鑄 晋	米 国	鈴 木 教 授	中国絵画史	43~44
劉 枝 萬	中華民国	窪 教 授	日中民間信仰の研究	44~45
金 尤 植	韓 国	泉 教 授		45
金 敬 泰	韓 国	佐 伯 教 授	朝鮮近代史	45
Stargardt, J.	オーストラリア	築 島 教 授		45~46. 7
Cirtis, Gerald	米 国	関 教 授	現代日本の政治過程	45~46. 3~47
Bastid, Marianne	仏 国	佐 伯 教 授	中国近代史の研究	45. 4~9
張 敬 濤	中華民国	鎌 田 助教授	中国佛教の研究	45~46. 10

VI 東洋学文献センター

第一期3カ年計画で、近現代中国、朝鮮刊行物等若干の資料の収集と整理をすすめるとともに、以下の各項の諸活動にとりくんできた。

(1) 東洋文化研究所所蔵漢籍分類目録の編纂・刊行

本研究所は日本で有数の漢籍所蔵機関（約22万冊）であって、その総合目録刊行は学界多年の願望であったが、本センターの努力により、昭和46・47年度にその刊行実現が予定されるにいたった。昭和46年度に本文篇、47年度に索引篇が刊行され

る見込みである。

(2) 「東洋学文献センター通信」および「東洋学文献センター叢刊」の編纂・刊行

センターの活動を広く利用者に知らせるとともに、利用者の意見を載せる場として「センター通信」（年2回・不定期）を編集・刊行し、昭和46年6月現在、第6号に達している。また、東洋学研究者のための書誌・資料等のドキュメンテーション活動として、「東洋学文献センター叢刊」（不定期）を編纂・刊行し、昭和46年6月現在、第13輯に達している。

第1輯	新収図書目録（昭和41年度）	昭和43年度刊
第2輯	清代地方劇資料集(1) 華北篇	同
第3輯	同 (2) 華中華南篇	同
第4輯	周揚著訳論文周揚批判文献目録	同
第5輯	郁達夫資料（作品目録、参考資料目録及び年譜）	昭和44年度刊
第6輯	新収図書目録（昭和42・43年度）	同
第7輯	朝鮮研究文献目録（単行書篇）上	同
第8輯	同 中	同
第9輯	同 下	同
第10輯	李大釗文献目録	同
第11輯	明刊元雜劇西廂記目録	昭和45年度刊
第12輯	朝鮮研究文献目録（単行書篇）索引	同
第13輯	魯迅全集注釈索引	同

VII 調査研究事業

A イラク・イラン遺跡調査研究

昭和42年3月、本研究所の江上波夫教授の退官にともない、江上波夫教授の主催する東京大学イラク・イラン遺跡調査団の海外調査はその整理並びに報告書作成の段階に入った。本研究班はその目的をもって構成され、深井が班主任となりその後も同じメンバーで報告書の作成に従事し今日にいたった。

昭和43年3月には、かつて第4次調査（昭和39年度）の際、イラン国デーラマン地方のハッサニ・マハレ丘とガレクティ丘で行なったパルティア・ササン期の古墳墓の考古学的調査に基づく成果を東京大学イラク・イラン遺跡調査団報告書8「デーラマンIII—ハッサニ・マハレ、ガレクティの発掘、1964」として出版した。編著の責任者は曾野・深井である。

同年12月には、第4次調査の際、イラン国デーラマン地方から出土した人骨の総合的研究を同調査団報告書9「西アジアの人類学的研究I—デーラマン古墳墓人骨1」として出版した。編著の責任者は池田である。

昭和44年11月には、第5次調査（昭和40年度）の際、イラン国ザグロス山脈中のケルマンシャー郊外のササン王朝時代の歴史遺跡ターグ・イ・ブスターを美術史、建築学の両見地から学術調査を行ない、その成果を東京大学イラク・イラン遺跡調査団報告書10「ターグ・イ・ブスターI」として出版した。編著の責任者は深井・堀内である。

昭和45年10月には、第4次調査の際、イラク国北部の先史農耕遺跡テル・サラサート第二号丘の考古学的発掘を行ない、その成果を同調査団報告書11「テル・サラサートII第二号丘の発掘、1964」として出版した。同報告書を作成中、昭和44年9月、研究担当の曾野寿彦教授が急逝されたため、その遺稿をもとにして編著の責任は深井、堀内、松谷がとることとなった。

昭和46年7月には、第4次調査の際、イラン国デーラマン地方の紀元前1000年紀初頭の古墳墓群の考古学的発掘を行ない、その成果を同調査団報告書12「デーラマンⅡ—ガレクティ第2号丘、第1号丘の発掘、1964」として刊行した。

なお引き続き昭和46年度中には「ターグ・イ・ブスターⅡ」を、昭和47年度には「タル・イ・ムシュキ」を、昭和48年度には「テル・サラサートⅢ」を刊行する予定である。

B 中世インド＝イスラーム建造物の調査研究

東京大学インド史跡調査団は、山本達郎元併任教授（団長）・荒松雄教授・月輪時房前助手・大島太市元研究委嘱を中心に、13世紀から16世紀に至るインドのイスラーム系建造物に関する調査研究を目的とし、昭和34・36年の2回にわたって、デリー周辺地域における諸遺跡、とくに墓建築、モスク、水利施設その他の建造物を調査し、その後諸資料の整理とそれにもとづく研究を行なってきた。その成果は『デリー：デリー諸王朝時代の建造物の研究』、第1巻「遺跡総目録」および第2巻「墓建築」、第3巻「水利施設」として、それぞれ昭和41年・昭和42年度・昭和43年に出版された。作業内容としては、資料の整理、とくに各種遺跡の状況・平面・立面・断面等の諸図の作成が主たるものであり、研究面では、荒が遺跡建造物の歴史的背景と諸問題とを究明し、山本・月輪が建造物の構造と様式上の問題を研究した。

C 西アジア農村の人文地理学的研究

われわれがとりあげる西アジア地域とは、イランを中心として、北はソ連のタジクスタン、ウズベクスタン、トルコメニスタン、アゼルバイジャン、東はアフガニスタン、パキスタン、西はトルコ、イラク、シリア、南はアラビア半島の諸国にまたがる広い領域で、一応国境をはずして考えられる文化的地域である。

この地域は、東洋と西洋の両者にはさまれた地理的位置から、多くの民族、人種、

宗教、文化が錯綜し、世界史の流れの中に、文明、文化の上で重要な役割を果してきたが、その実態はかならずしも明らかにされているとはいえない。世界史発展のメカニズムを明らかにし、現在の国際問題を解明するためにも、この地域の社会、経済、文化の構造の実態を分析することは、きわめて重要な意義をもっている。

ところで、このような経済、社会、文化の諸条件の具体的なコンプレックス体は、まさに、「農村」という形であらわれており、その総合的分析、つまり人文地理学的方法による解明を出発点として、はじめて諸科学の分析へと展開することができよう。したがって、このような農村調査は、いわば考古学的な遺跡発掘に相当するものであり、歴史、社会学、経済学、宗教学等の諸分野に基礎的なデータを提供する役割を担っており、将来のアジア研究にとって大いに期待されることである。

以上のような考えにもとづいて、われわれは、現地の具体的な「むら」を選び、これに住み込み、現地の言葉を話し、農民と生活を共にしつつ、農村の構造に関する生の資料を直接に収集することを目的とした。

このような目的によって、この共同研究班は、3回（隔年）にわたって、現地農村を調査する計画を立て、第1回は1970年6月から11月にかけてアフガニスタンに出張し、2つの農村をとりあげ、その集中的調査を行なった。1つは、ヘルート市周辺のタージーク人の農村であり、もう1つは、カーブル市周辺のパシトゥン人の農村であった。

附 1 研究課題

◎印 研究担当
※印 研究委嘱
○印 非常勤講師
①印 流動研究員
●印 奨励研究員

昭和42年度

- I アジアにおける経済発展と政治に関する研究 班主任 川野
- (1) 川野重任 台湾の経済発展体制
 - (2) 橋本秀一 セイロンの経済開発
 - (3)※滝川勉 フィリピンの経済発展
 - (4) 逸見謙三 アジアにおける農産物貿易
 - (5)◎坂野正高 中国における政治過程の特質 その一
 - (6)◎衛藤瀬吉 " その二
 - (7)※閔寛治 タイ国の政治過程
 - (8) 萩原宣之 マラヤの政治過程
- II 西アジア研究 班主任 大野
- (1) 小口偉一
 - (2)※加賀谷寛
 - (3)※板垣雄三
 - (4) 大野盛雄
- III 古代西アジアの民族と文化 班主任 深井
- (1)◎曾野寿彦 古代西アジア原始農耕集落の問題
 - (2) 松谷敏雄 古代西アジアにおける農耕と牧畜の起源の問題

- (3)※堀 内 清 治 建築史上よりみたる古代西アジアの都市
(4)※池 田 次 郎 古代西アジアの人種問題
(5)※新 規矩男 シュメールの歴史と文化
(6) 黒 田 和 彦 古バビロニアの歴史と文化
(7)※増 田 精 一 イラン高原における青銅器文化
(8)※杉 山 二 郎 パルティア美術と印度美術
(9) 深 井 晋 司 ササン美術と隋唐時代の中国美術

IV インドにおける支配体制と社会構造 班主任 荒

- (1) 山 崎 利 男 古代インド社会の変化
(2) 荒 松 男 中世インドにおける政治権力と宗教
(3) 松 井 透 イギリス植民地支配とインド社会
(4) 山 崎 利 男 英領インドにおける司法制度
(5)※中 村 平 治 独立後インドの政党政治の諸段階
(6)※古 賀 正 則 独立後インドの土地制度の変革過程
(7) 荒 松 雄 パキスタンにおける政治と社会
(8) 中 根 千 枝 現代インドにおける家族構造と血縁・婚姻組織

V デリー諸王朝時代の建造物の研究 班主任 荒

- (1) 山 本 達 郎 建造物よりみたインドおよびイスラーム文化の交流と変容
(2) 荒 松 雄 デリーに現存するサルタナット時代の遺跡の歴史的研究

VI 東南アジアの社会と文化 班主任 橋本

- (1) 山 本 達 郎 ベトナムの村落と土地制度
(2)※和 田 久 德 東南アジア華僑社会の変遷
(3) 池 端 雪 浦 19世紀におけるフィリピンの社会構造の変化
(4)※岸 幸 一 インドネシアのデサについて
(5) 築 島 謙 三 マレー人とサルタン制

(6) 橋 本 秀 一 17世紀のヒイロン

VII 中国における政治機構とその基礎過程

班主任 佐伯

- (1)※松 丸 道 雄 殷周時代の国家構造
- (2) 関 野 雄 先秦諸国の経済機構
- (3)○小 倉 芳 彦 戰国秦漢期の政治思想
- (4)○西 嶋 定 生 唐代良賤制の研究
- (5)○堀 敏 一 中国古代末期の支配体制
- (6)※柳 田 節 子 宋代江南デルタ地帯の土地所有制
- (7)※小 山 正 明 明代税役制と農村の変化
- (8) 浜 島 敦 俊 明清江南デルタ地帯の水利灌漑
- (9)※田 中 正 俊 明清時代における農村の階級構成
- (10) 松 本 善 海 清代中期における保甲法の展開
- (11)※西 川 正 夫 清末民国初期における農村機構
- (12) 佐 伯 有 一 中国革命前夜農村における土地関係

VIII 中国の思想と宗教

班主任 窪

- (1) 江 島 恵 教 中觀思想の形成
- (2)○泰 本 融 中国の論理思想と仏教論理学
- (3)○塩 入 良 道 中国疑似經典と道教
- (4) 鎌 田 茂 雄 道教經典にあらわれた仏教思想
- (5) 窪 德 忠 元代における仏道関係
- (6)※野 田 幸三郎 日本仏教と中国仏教との比較研究

IX 中国絵画における伝統と創造

班主任 鈴木

- (1) 鈴 木 敬
 - (2)※吉 沢 忠
 - (3)※川 上 涤
 - (4)※戸 田 佑
 - (5)※海老沢 聰 雄
- 中国絵画における伝統と創造

X 中国の思想と文学 班主任 尾上

- 新(1)※高 田 淳 中国近代思想史における章炳麟の位置
(2)※野 村 浩 一 毛沢東思想の研究
(3)※新 島 淳 良 中国における「整風運動」の研究
——プロレタリア文化大革命の論理構造——
(4)○前 野 直 彬 盛唐詩の成立
(5) 山之内 正 彦 中晚唐詩研究
(6)※木 山 英 雄 旧小説の世界
(7) 尾 上 兼 英 明清小説の史的研究
(8)※竹 内 実 1930年代の文学
(9)○丸 山 升 左翼作家連盟と周揚

XI 中国・朝鮮近現代史の研究 班主任 佐伯

- (1)※小 島 晋 治 太平天国革命の研究
(2)※中 村 義 洋務党および変貌運動の研究
(3) 佐 伯 有 一 労農運動と中国大革命
(4) 石 田 米 子 中国民族解放運動史の研究
——第二次国内革命戦争と抗日運動——
(5)※野 沢 豊 抗日戦争期の政治過程
(6)○古 島 和 雄 中国官僚資本の形成とその構造
(7) 加 藤 祐 三 新民主主義革命とその権力の形成過程
(8)※本 橋 涼 中国および朝鮮の経済成長とその機構の比較研究
(9)※常 盤 純 子 中国における社会主义経済の発展の型
(10)※菅 沼 正 久 中国の流通経済

XII 東アジア史における日本文化の形成過程 班主任 泉

- (1)○西 嶋 定 生 古代東アジアにおける国際的政治機構
(2)○井 上 光 貞 日本における律令法の受容過程

- (3) 甘 粥 健 古墳文化より見たる日本古代国家の形成
(4) 泉 靖一 日本古代における社会組織の比較研究

XIII 近代日本の思想と宗教

班主任 小口

- (1) 小 口 偉 二 } 戦後における宗教集団の構造変化
◎柳 川 啓 一
※井 門 富 二 夫
※森 岡 清 美 }

(2) ※宮 川 透 } 日本文化論
○生 松 敬 三 }

(3) ◎丸 山 真 男 近代政治思想におけるコトバの問題

(4) 築 島 謙 三 外国人の日本観

XIV ヨーラシア大陸における社会組織の比較研究

班主任 中根

- (1) 泉 靖一 朝鮮における社会組織
(2) 中 根 千 枝 チベットの社会組織と宗教組織
(3) ※村 上 正 二 モンゴルの部族制度
(4) ※白 鳥 芳 郎 華南の少数民族の社会組織と宗教
(5) ◎大 林 太 良 インドシナにおける儀礼をとおしてみた征服民族と被征服民族

(6) 松 谷 敏 雄
(7) 青 木 保
(8) ※神 田 信 夫

昭和43年度

I 経済発展の基本過程

班主任 川野

- (1) 川 野 重 任 台湾の工業化過程
(2) 橋 本 秀 一 セイロンの乾燥地帯開発
(3) ※滝 川 勉 フィリピンの経済発展

- (4)◎逸 見 謙 三 アジアにおける農産物貿易
 (5)※萩 原 宜 之 マラヤの経済発展と政治過程
 (6) 山 田 三 郎 マラヤ経済発展の多元構造
 (7) 大 野 盛 雄 } 日本産業の地域構造
 ※高 津 斎 彰 }

II 開発途上国の中東と国際環境

班主任 関

- (1) 加 藤 祐 三 政治変動の歴史的研究
 (2)※高 畠 通 敏 政治変動の計量分析
 (3) 関 寛 治 政治変動のシミュレーション
 (4)※高 柳 先 男 政治変動の理論的研究

III 社会集団の基本構造

班主任 泉

- (1) 泉 靖 一 13世紀末における非ヨーロッパ社会の構造
 (2) 中 根 千 枝 チベット社会の構造
 (3) 松 谷 敏 雄 メソポタミアにおける農耕の起源から国家形成
 (4) 青 木 保 東南アジアにおける都市の形成
 (5)※甘 稔 健 } 日本における政治集団の形成
 ◎井 上 光 貞 }
 (6)◎増 田 昭 三 アジアとの比較における先スペイン時代の核アメリカの
 社会構造
 (7) 池 端 雪 浦 先スペイン時代のフィリピン社会の構造

IV 西アジア研究(1)

班主任 深井

- (1) 曾 野 寿 彦 前第一千年紀初頭におけるイラン文化の形成
 (2) 松 谷 敏 雄 遊牧民社会の構造
 (3) 黒 田 和 彦 ハンムラビ時代の社会と文化
 (4)※杉 山 二 郎 美術にあらわれた農耕社会と遊牧社会との比較研究
 (5)※堀 内 清 治 古代西アジアにおけるドーム建築

- (6) 深井晋司 ササン朝美術の形成とその発展
(7)※石井昭 初期イスラーム時代の建築

V 西アジア研究(2) 班主任 大野

- (1) 小口偉一 西アジアにおける民族と宗教
(2)※加賀谷寛 現代イスラムの構造
(3) 荒松雄 イスラム史における政治権力と宗教
(4) 佐藤次高 イスラム封建制
(5)※板垣雄三 アラブ民族主義の史的展開
(6)※岡崎正孝 近代イランにおける土地制度

——とくに19世紀を中心に——

- (7) 大野盛雄 イラン農村の社会経済構造

VI 西アジアにおける先史文化の研究 班主任 深井

- (1)◎曾野寿彦 古代西アジアにおける町邑文化の成立
(2) 深井晋司 彩文土器にみられる図像学的研究
(3)※池田次郎 古代西アジアの人種問題
(4)※増田精一 イラン高原における彩文土器の文化

VII インドにおける支配体制と社会構造 班主任 荒

- (1) 山崎利男 古代インド社会の変貌
(2) 荒松雄 中世インドにおける政治と宗教
(3) 松井透 イギリス植民地支配とインド社会
(4) 山崎利男 英領インドにおける司法制度
(5) 長崎暢子 イギリス帝国主義支配と土地制度
(6)※中村平次 現代インド政治における分化と統合

——政党政治の消長をめぐって——

- (7) 中根千枝 現代インドにおける家族制度の研究

VIII デリー諸王朝時代の建造物の研究 班主任 荒

- (1) 山本達郎 建造物よりみたインドおよびイスラーム文化の交流と変容
(2) 荒松雄 デリーに現存するサルタナット時代の遺跡の歴史的研究

IX 東南アジアの国家形成

班主任 橋本

- (1) 山本達郎 黎朝刑律の研究
(2)※和田久徳 マラッカ王国史研究
(3) 築島謙三 マレー人とサルタン制
(4)※岸幸一 インドネシアの村落
(5) 池端雪浦 19世紀におけるフィリピンの社会構造の変化
(6) 高橋彰 フィリピン農村構造の研究
(7) 橋本秀一 ノックスの見た13世紀のセイロン
(8)※生田滋 近世植民地の東南アジア
(9)※浦野起央 東南アジアの比較政治

X 前近代中国の政治経済の史的研究

班主任 佐伯

1 政治構造

- (1)※小倉芳彦 戰国秦漢期の政治思想
(2)※堀敏一 六朝隋唐の国家権力と土地制度
——均田制を中心として——
(3) 佐伯有一 明清時代における郷紳とその支配
(4)※西川正二 清末の革命運動

2 経済構造

- (5)◎関野進 先秦時代の経済機構
(6)※柳田節子 宋代国家権力と郷村支配
(7) 浜島敦俊 明末清初の賦役改革と土地問題
(8)◎田中正俊 解体期中国の経済構造

XI 中国の思想と宗教

班主任 窪

- (1) 江島恵教 中觀思想の形成と展開
- (2)※泰本融 中国の論理思想と仏教論理学
- (3)※塩入良道 中国における禪觀思想
- (4) 鎌田茂雄 起信論と中国仏教——占察經を中心として——
- (5) 窪徳忠 元代における三教関係
- (6)※野田幸三郎 日本古代の儒教
- (7) 蜂屋邦夫 全真教の教理的研究

XII 宋元仏画研究

主任 鈴木

- (1) 鈴木敬 十王図
- (2)※川上涇 羅漢図
- (3)※戸田禎佑 仏菩薩像

XIII 中国の思想と文学

班主任 尾上

- (1)※高田淳 近代思想史における章炳麟の位置
- (2)◎溝口雄三 近代思想史における李贊の位置
- (3)◎前野直彬 盛唐詩研究
- (4) 山之内正彦 中晚唐詩研究
- (5)※木山英雄 旧小説の世界
- (6) 尾上兼英 明清小説研究
- (7)※田仲一成 中国演劇史研究

XIV 現代中国および朝鮮の研究

班主任 佐伯

1 1840~1940年

- (1)※中村義 改良主義とその史的基盤
- (2)※石田米子 辛亥革命史研究
- (3) 佐伯有一 国民党政権と農民問題
- (4) 加藤祐三 民族解放論

- (5)◎古 島 和 雄 抗日民族統一戦線論
 (6)※丸 山 升 左翼作家連盟の研究
 (7)※竹 内 実 抗日戦争の毛沢東の思想——階級と民族——
 (8)※姜 德 相 1930年以後の朝鮮民族解放斗争史の研究

2 1941年以降

- (9)※菅 沼 正 久 半植民半封建社会における社会主義化
 (10)※常 盤 純 子 第一次五ヵ年計画における重工業優先投資と大躍進政策の関係
 (11)※野 村 浩 一 現代中国の内政と外交
 (12)※新 島 淳 良 1949年以後の中国思想史
 (13) 梶 村 秀 樹 現代朝鮮経済政策

XV 中国をめぐる国際政治

班主任 関

- (1)◎坂 野 正 高 近代中国の政治過程(一) 光緒年間の条約論議
 (2)◎衛 藤 濬 吉 近代中国の政治過程(二) ワシントン体制下の日中関係
 (3) 関 寛 治 近代中国の政治過程(三) ワシントン体制下の条約論議
 (4)※藤 井 升 三 中国革命における孫文

XVI 明代以降の文献資料の研究

班主任 窪

- (1) 窪 德 忠 明清宗教文献の研究
 (2) 佐 伯 有 一 明清経済古文書の研究
 (3) 尾 上 兼 英 明清小説資料の研究
 (4) 初 見 升 中国新学部資料分類法の研究
 (5) 陳 明 新 中国戯曲小説資料の研究
 (6) 沢 谷 昭 次 中国政法文献の研究
 (7)◎前 野 直 彬 漢籍目録学の研究
 (8)※田 仲 一 成 清代地方劇の研究
 (9)※伝 田 章 西廂記版本の研究

- (10)※丸 山 松 幸 李大釗研究史
(11)※佐 藤 保 和刻本唐人別集資料の研究

XVII 近代日本の思想と宗教 班主任 小口

- (1) 小 口 偉 一
◎柳 川 啓 一
※井 門 富 二
※森 岡 清 夫 } 戦後における宗教集団の構造変化

- (2)※生 松 敬 三 日本国文化論

XVIII 日本の社会とことば 班主任 築島

- (1)◎丸 山 真 男 近代政治思想におけるコトバの問題
(2)※野 元 菊 雄
◎碧 海 純 一 } 社会変化と敬語
(3) 尾 上 兼 英 現代中国語の対人呼称
(4) 築 島 謙 三 外国人の見た日本語

昭和44年度

I 汎アジア経済——経済発展の基本過程 班主任 川野

- (1) 川 野 重 任 台湾の工業化過程
(2) 橋 本 秀 一 セイロン開発の諸問題
(3)※滝 川 勉 フィリピンの経済発展
(4)◎逸 見 謙 三 アジアにおける農産物貿易
(5) 山 田 三 郎 韓国の工業化過程

II 汎アジア人文地理学 班主任 大野

- (1) 大 野 盛 雄 生活様式論
(2) 高 橋 彰 人文地理学における地域研究の方法

III 汎アジア文化人類学——文化人類学の方法の諸問題 班主任 泉

- (1) 泉 靖 一 方法としての野外調査

- (2) 中根千枝 社会人類学方法における歴史の考察
- (3) 松谷敏雄 先史学の研究方法
- (4) 青木保 都市と農村の概念
- (5)※原忠彦 家族研究の方法

IV 東アジア政治・法律 ——中国をめぐる国際政治 班主任 関

- (1)◎坂野正高 近代中国の政治過程(一) ——光緒年間の条約論議——
- (2)◎衛藤藩吉 近代中国の政治過程(二)
——ワシントン体制下の日中関係——
- (3) 関寛治 近代中国の政治過程(三)
——ワシントン体制下の条約論議——

V 東アジア歴史——東アジアの変革期における権力とその基盤

班主任 佐伯

- (1)◎関野雄 先秦時代の経済機構
- (2)◎西嶋定生 東アジアにおける冊封体制
- (3)※堀敏一 唐宋の変革と東アジア
- (4) 佐伯有一 20世紀前後の中国と日本
- (5)◎古島和雄 中国官僚資本と後進アジア地域の資本主義
- (6)※菅沼正久 中国の社会主義建設の提起する諸問題

VI 東アジア美術史・考古学——宋元仏画研究 班主任 鈴木

- (1) 鈴木敬 宋元仏画の表現形式について
- (2)※川上涇 宋元仏画中にみる山水表現の研究
- (3)※戸田禎佑 宋元仏画における花鳥表現の研究
- (4)※浜田隆 宋元仏画の図像学的研究

VII 東アジア哲学・宗教——中国の思想と宗教

班主任 窪

- (1)※野田幸三郎 儒教の成立と展開
- (2)※泰本融 中国の論理思想と仏教論理学説

- (3)※塩入良道 中国における禪觀思想
- (4)鎌田茂雄 唐代における仏教と道教
- (5)蜂屋邦夫 儒仏との関係における全真教々理の研究
- (6)窪徳忠 元代における三教関係

VIII 東アジア文学——中国の思想と文学 班主任 尾上

- (1)※高田淳
※溝口雄三
※西川正三 靑末民初の革命思想と運動
- (2)※竹内実
※丸山昇
尾上兼英 1930年代文学の諸問題

XI 南アジア政治・経済——インドにおける支配体制と社会構造

班主任 荒

- (1) 山崎利男 古代インド社会の変貌
- (2) 荒松雄 中世インドにおける政治と宗教
- (3) 松井透 イギリス植民地支配とインド社会
- (4) 山崎利男 英領インドにおける司法制度
- (5) 長崎暢子 イギリス帝国主義支配と土地制度
- (6)※中村平次 現代インド政治における分化と統合
——政党政治の消長をめぐって——
- (7) 中根千枝 現代インドにおける家族制度の研究

X 東北アジア 班主任 橋本

- (1) 橋本秀一 軍閥期の満洲経済
- (2)※姜徳相 1930年代の朝鮮民族開放闘争と東アジア
- (3)※梶村秀樹 朝鮮現代の経済政策と東アジア

XII 西アジア歴史・文化 班主任 深井

- (1) 小口偉一 西アジアにおける民族と宗教
- (2) 松谷敏雄 イラン高原における初期農耕村落

- (3) 黒田和彦 ハンムラビ時代の社会と文化
- (4) 深井晋司 パルティア・ササン朝美術の特質
- (5) 佐藤次高 西アジアの中世イスラム社会

共同研究

A 新興諸国の政治変動と国際環境 班主任 関

- (1)※高畠通敏 政治変動の計量分析——その一——
- (2) 関寛治 政治変動の計量分析——その二——
- (3)※白鳥令 新興諸国における政治発展の概念と理論

B アジアの農村 班主任 大野

- (1) 大野盛雄 西アジアの農村
- (2) 高橋彰 東南アジアの農村
- (3) 松井透 インドの農村

C 東南アジアの国家形成 班主任 橋本

- (1) 山本達郎 越南における国家形成とその特質
- (2)※和田久徳 マラッカ王国史研究
- (3) 築島謙三 マレー人とサルタン制
- (4)※岸幸一 インドネシアの民族国家の形成とイスラミズムの役割
- (5) 池端雪浦 フィリピン革命とその伝統
- (6) 高橋彰 フィリピンのバヤム
- (7) 橋本秀一 17世紀のセイロン
- (8)※生田滋 17世紀およびそれ以前のマレーシアおよびスマトラにおける国家形成の過程の研究
- (9)※浦野起央 東南アジア政治発展の構造

D 近代日本の思想と宗教 班主任 ...

- (1) 小口偉一
 ○柳啓一
 ※井富二夫
 ※森清美

戦後における宗教集団の構造変化

- (2)※宮川透　日本人の価値意識

E 日本の社会とことば

班主任 築島

- (1)○丸山真男　近代政治思想におけるコトバの問題
- (2)○碧海純一　社会変化と敬語
- (3)尾上兼英　現代中国語の対人呼称
- (4)築島謙三　外国人の見た日本語

附属I 西アジアにおける先史・歴史遺跡の研究

班主任 深井

- (1)※池田次郎　古代西アジアの人種問題
- (2)※堀内清治　古代西アジアにおけるドーム建築
- (3)※増田精一　イラン高原における彩文土器の文化
- (4)深井晋司　ターグ・イ・ブスターの諸問題
- (5)※杉山二郎　ササン朝ペルシアの文様について

附属II デリー諸王朝時代の建造物の研究

班主任 荒

- (1) 山本達郎　建造物よりみたインドおよびイスラーム文化の交流と変容
- (2) 荒松雄　デリーに現存するサルタナット時代の遺跡の歴史的研究
- (3)○月輪時房　建造物における構造と様式の研究

昭和45年度

I 汎アジア経済——後進国経済発展の基本過程——

班主任 川野

- (1) 川野重任　台湾の工業化過程
- (2) 山田三郎　タイ経済開発計画の課題
- (3)○滝川勉　フィリピンの経済発展

- (4)◎逸見謙三 アジアにおける農産物貿易
(5)※萩原宜之 マレーシアの開発行政
※(6)館斎一郎 後進国における人口増加と経済開発
※(7)古賀正則 インドの農村開発

II 欢アジア人文地理学

班主任 大野

- (1) 大野盛雄 生活様式論
(2) 高橋彰 人文地理学における地域研究の方法

III 洪アジア文化人類学——文化人類学の方法の諸問題—— 班主任 泉

- (1) 泉 靖一 方法としての野外調査
 - (2) 中根 千枝 社会人類学における歴史の考察
 - (3) 松谷 敏雄 先史学の研究方法
 - (4) 青木 保 都市の農村の概念
 - (5)※原 忠彦 家族研究の方法
 - (6)※外間 守善} 神話の分析方法
 - (7)※張根}

IV 東アジア政治・法律——中国をめぐる国際政治——

班主任 閻

- (1)○坂 野 正 高 近代中国の政治過程(一) ——光緒年間の条約論議——

(2)○衛 藤 濬 吉 近代中国の政治過程(二)
——ワシントン体制下の日中関係——

(3) 関 寛 治 近代中国の政治過程(三)
——ワシントン体制下の条約論議——

(4)※藤 井 昇 三 近代中国の政治過程四
——ワシントン体制下の中国の政治——

V 東アジア歴史——東アジアの変革期における権力とその基盤——

班主任 佐伯

- (1) ◎ 関 野 雄 先秦時代の経済機構

- (2)○西 嶋 定 生 東アジアにおける冊封体制
 (3)○堀 敏 一 唐宋の変革と東アジア
 (4) 佐 伯 有 一 20世紀前後の中国と日本
 (5)※西 川 正 二 東アジアにおける辛亥革命の歴史的意義
 (6)○古 島 和 雄 中国官僚資本と後進アジア地域の資本主義
 (7)※菅 沼 正 久 中国の社会主义建設の提起する諸問題
 (8)※姜 德 相 1830年代の朝鮮民族解放闘争と東アジア
 (9)※梶 村 秀 樹 朝鮮現代の経済政策と東アジア

V 東アジア美術史・考古学——宋元仏画研究—— 班主任 鈴木

- (1) 鈴 木 敬 宋元仏画の表現形式について
 (2)※川 上 涅 宋元仏画中にみる山水表現の研究
 (3)※戸 田 祯 佑 宋元仏画における花鳥表現の研究
 (4)※浜 田 隆 宋元仏画の図像学的研究
 (5)※海老根 聰 郎 宋元の禅宗絵画

VII 東アジア哲学・宗教——中国の思想と宗教—— 班主任 窪

- (1)※野 田 幸三郎 儒教と宗教——日本と中国との比較——
 (2)○泰 本 融 中国の論理思想と仏教論理学説
 (3)○塩 入 良 道 中国における禅觀思想
 (4) 鎌 田 茂 雄 唐代における仏教と道教
 (5) 蜂 屋 邦 夫 儒仏との関係における全真教々理の研究
 (6) 窪 徳 忠 元代における三教関係

VIII 東アジア文学——中国の思想と文学—— 班主任 尾上

- (1)○高 田 淳
 ※西 川 喜久子} 清末民初の革命思想と運動
 (2) 尾 上 山 兼 英
 ○丸 昇} 1930年代文学の諸問題

IX 南アジア政治・経済——インドにおける支配体制と社会構造——

班主任 荒

- (1) 山崎 利男 古代インド社会の変貌
- (2) 荒松 雄 中世インドにおける政治と宗教
- (3) 松井 透 イギリス植民地支配とインド社会
- (4) 山崎 利男 英領インドにおける分化と統合
- (5) 長崎 暢子 イギリス帝国主義と土地制度
- (6)※中村 平次 現代インド政治における分化と統合

——政党政治の消長をめぐって——

X 東北アジア——親族組織と社会構造——

班主任 中根

- (1) 中根 千枝 チベット・蒙古の社会組織
- (2) 松丸 道雄 中国古代の親族組織と社会構造
- (3)※末成道男 朝鮮・台湾の親族組織
- (4)※神田信夫 満洲の社会組織

XI 西アジア歴史・文化

班主任 深井

- (1) 松谷 敏雄 イラン高原における初期農耕村落
- (2) 黒田 和彦 ハンムラビ時代の社会と文化
- (3) 深井 晋司 パルティア・ササン朝美術の特質
- (4) 佐藤 次高 西アジアの中世イスラム社会
- (5)※中村 廣治郎 中世イスラームの神秘思想

共同研究

A 新興諸国の政治変動と国際環境

班主任 関

- (1)○高畠 通敏 政治変動の計量分析——その一——
- (2) 関 宽治 政治変動の計量分析——その二——
- (3)※白鳥 令 新興諸国における政治発展の概念と理論
- (4)※沖野 安春 比較政治学における政治発展論の系譜

- (5)※浦野起央 アジア・アフリカ・ラテンアメリカの政治変動の比較
- (6)森利一 政治変動、政治的近代化、政治発展
——インドのケース——
- (7)※丸山昭 政治発展と経済変動
- B アジアの農村 班主任 大野
- (1)大野盛雄 西アジアの農村
- (2)高橋彰 東南アジアの農村
- (3)松井透 インドの農村
- C 東南アジアの国家形成 班主任 築島
- (1)山本達郎 越南における国家形成とその特質
- (2)※和田久徳 マラッカ王国史研究
- (3)※生田滋 17世紀およびそれ以前のマレーシアおよびスマトラにおける国家形成の過程の研究
- (4)築島謙三 マレー人の民族心理
- (5)山田三郎 タイの行政機構と国家開発
- (6)池端雪浦 フィリピン革命とその伝統
- (7)高橋彰 フィリピンのバヤム
- D 近代日本の社会と思想 班主任 築島
- (1)◎柳川啓一
○井門富二夫
※森岡清美 戦後における宗教集団の変化
- (2)宮川松敬透 日本文化と価値意識
- (3)◎丸山真男 近代政治思想におけるコトバの問題
- (4)◎碧海純一 社会変化と敬語
- (5)※芳賀綏 国民性と国語
- (6)尾上兼英 現代中国語の対人呼称

(7) 築島謙三 外国人の見た日本語

E 明代史の総合的研究

班主任 佐伯

- (1) 佐伯有一 明末清初の社会構造
- (2) 尾上兼英 小説盛行の基盤
- (3) 溝口雄三 明末に生きた李卑吾
- (4) 鈴木敬 具派文人画の成立と文徵明
- (5) 戸田禎佑 明末董其昌様式の変容
- (6) 窪徳忠 浄明道と全真教
- (7) 鎌田茂雄 惠山徳清の思想——諸宗融合と三教一致——

F 全真教教理の研究

班主任 窪

{ 窪徳忠
蜂屋邦夫
尾上兼英
鎌田茂雄

附属I 西アジアにおける先史・歴史遺跡の研究

班主任 深井

- (1) 池田次郎 古代西アジアの人種問題
- (2) 堀内清治 古代西アジアにおけるドーム建築
- (3) 増田精一 イラン高原における彩文土器の文化
- (4) 深井晋司 ターク・イ・プスターの諸問題
- (5) 杉山二郎 ササン朝ペルシアの文様について

附属II 西アジア農村の実証的(人文地理学的)研究

班主任 大野

- (1) 大野盛雄 村落構造の研究
- (2) 勝藤猛 西アジア農村の歴史的背景
- (3) 安部喜也 土地および水利用の研究

昭和46年度

- I 汎アジア経済——低開発国経済発展の基本過程—— 班主任 川野
- (1) 川野重任 低開発国農業発展の条件
 - (2) 山田三郎 タイ経済開発の課題
 - (3)※滝川勉 フィリピンの経済発展
 - (4)○辺見謙三 アジアにおける農産物貿易
 - (5)※萩原宜之 マレーシアの開発行政
 - (6)※館齊一郎 後進国における人口増加と経済開発
 - (7)※古賀正則 インドの農村開発
 - (8)○鈴木忠和 東南アジア農業発展の型
- II 汎アジア人文地理学 班主任 大野
- (1) 大野盛雄 生活様式論
 - (2) 高橋彰 人文地理学における地域研究の方法
- III 汎アジア文化人類学 班主任 中根
- (1) 中根千枝 インド、マラヤにおけるエリートの集団構造
 - (2) 青木保 タイ社会における宗教とシンポリズムの構造論的研究
 - (3)※原忠彦 モスレム家族の比較研究(東パキスタン、インドネシア、中近東)
 - (4)○末成道男 台湾、韓国、日本における親族組織の比較
 - (5)※玄容駿 韓国の家族と宗教
- IV 東アジア政治・法律——中国をめぐる国際政治—— 班主任 関
- (1)○坂野正高 近代中国の政治過程(一) ——光緒年間の条約論議——
 - (2)○衛藤藩吉 近代中国の政治過程(二)
——ワシントン体制下の日中関係——
 - (3) 関寛治 近代中国の政治過程(三)

——ワシントン体制下の条約論議——

- (4)※藤井昇三　近代中国の政治過程④

——ワシントン体制下の中国の政治——

V 東アジア歴史——東アジアの変革期における権力とその基盤——

班主任 佐伯

- (1)○関野雄　先秦時代の経済機構
(2)○西嶋定生　東アジアにおける冊封体制
(3) 池田温　中国における均田制と東アジア
(4)○堀敏一　唐宋の変革と東アジア
(5) 佐伯有一　世紀前後の中国と日本
(6)※西川正二　東アジアにおける辛亥革命の歴史的意義
(7)○古島和雄　中国官僚資本と後進アジア地域の資本主義
(8)※菅沼正久　中国の社会主义建設の提起する諸問題
(9)※姜徳相　1930年代の朝鮮民族解放闘争と東アジア
(10)※梶村秀樹　朝鮮現代の経済政策と東アジア

VI 東アジア美術史・考古学——宋元仏画研究——

班主任 鈴木

- (1) 鈴木敬　宋元仏画の表現形式について
(2)※川上涇　宋元仏画中にみる山水表現の研究
(3) 戸田禎佑　宋元仏画における花鳥表現の研究
(4)※浜田隆　宋元仏画の図像学的研究
(5)※海老根聰郎　宋元の禅宗絵画

VII 東アジア哲学・宗教——中国の思想と宗教——

班主任 窪

- (1) 江島恵教　インド論理思想における佛教論理学説の位置
(2)※野田幸三郎　儒教と宗教——日本と中国との比較——
(3)○泰本融　中国の論理思想と佛教論理学説
(4)○塩入良道　中国における禅觀思想

- (5) 鎌田茂雄 唐代における仏教と道教
- (6) 蜂屋邦夫 儒仏との関係における全真教々理の研究
- (7) 窪徳忠 元代における三教関係

VIII 東アジア文学——中国の思想と文学—— 班主任 尾上

- (1) ○高田淳
※西川喜久子 清末民初の革命思想と運動
- (2) ○尾上兼英
○丸山昇 1930年代文学の諸問題

XI 南アジア政治・経済——インドにおける支配体制と社会構造——

班主任 荒

- (1) 山崎利男 古代インド社会の変貌
- (2) 荒松雄 中世インドにおける宗教と政治・社会
- (3) 松井透 イギリス植民地支配とインド社会
- (4) 山崎利男 英領インドにおける司法制度
- (5) 長崎暢子 イギリス支配下の民族形成と政治権力
- (6) ※中村平治 現代インド政治における分化と統合

——政党政治の消長をめぐって——

X 東化アジア——親族組織と社会構造—— 班主任 松丸

- (1) 中根千枝 チベット・蒙古の社会組織
- (2) 松丸道雄 中国古代の親族組織と社会構造
- (3) ※末成道男 朝鮮・台湾の親族組織
- (4) ※神田信夫 満州の社会組織

XII 西アジア・歴史文化 班主任 深井

- (1) 松谷敏雄 イラン高原における初期農耕村落
- (2) 黒田和彦 ハンムラビ時代の社会と文化
- (3) 深井晋司 パルティア・ササン朝美術の特質
- (4) 佐藤次高 西アジアの中世イスラム社会

- (5) 中 村 廣治郎 中世イスラームの神秘思想

共同研究

A 新興諸国の政治変動と国際環境 班主任 関

- (1)○高 畠 通 敏 政治変動の計量分析——その一——
(2) 関 寛 治 政治変動の計量分析——その二——
(3)※白 鳥 令 新興諸国における政治発展の概念と理論
(4)※沖 野 安 春 比較政治学における政治発展論の系譜
(5)※浦 野 起 央 アジア・アフリカ・ラテンアメリカの政治変動の比較
(6) 森 利 一 政治変動、政治的近代化、政治発展
——インドのケース——
(7)※丸 山 昭 政治発展と経済変動
(8)※菊 地 信 雄 経済発展と社会変動

B アジアの農村 班主任 大野

- (1) 大 野 盛 雄 西アジアの農村
(2) 高 橋 彰 東南アジアの農村
(3) 松 井 透 インドの農村
(4)※大岩川 和 正 イスラエルの農村
(5)※友 杉 孝 タイの農村

C 東南アジアの社会経済組織 班主任 山田

- (1) 山 田 三 郎 タイの社会と経済
(2) 高 橋 彰 フィリピンのバヤム
(3) 池 端 雪 浦 フィリピン革命の研究

D 近代日本の社会と思想 班主任 大野

- (1) 大 野 盛 雄 農業・農村に関する日本の価値観

(2)◎柳川 啓一
○井門 富二夫
※森岡 清美} 戦後における宗教集団の変化

(3)※宮川透
※生松敬三} 日本文化と価値意識

E 旧植民地の研究 班主任 佐伯

- (1) 佐伯有一 プロック経済の史的性格
- (2)※梶村秀樹 同化と分断
- (3)※姜徳相 三一運動論
- (4) 戴国輝 台湾における土地調査事業
- (5)※小島麗逸 満洲における労働力問題
- (6) 加藤祐三 植民政策の系譜

F 明代史の総合的研究

- (1) 佐伯有一 明末清初の社会構造
- (2) 尾上兼英 小説盛行の基盤
- (3)※溝口雄三 明末に生きた李卓吾
- (4) 鈴木敬 吳派文人画の成立と文徵明
- (5) 戸田禎佑 明末董其昌様式の変容
- (6) 窪徳忠 浄明道と全真教
- (7) 鎌田茂雄 憨山徳清の思想——諸宗融合と三教一致——
- (8) 小林サエ 明末における陽明学の影響
- (9)①古原宏伸 万歴から崇禎へ、画壇の推移と展開

G 全真教教理の研究 班主任 窪

{ 窪蜂尾 麟上 田林 德邦 兼茂 サエ
忠夫 英雄 エ

附属I 西アジアにおける先史・歴史遺跡の研究

班主任 深井

- (1)※池田次郎 古代西アジアの人種問題
- (2)※堀内清治 古代西アジアにおけるドーム建築
- (3)※増田精一 イラン高原における彩文土器の文化
- (4)深井晋司 ターク・イ・ブスターの諸問題
- (5)※杉山二郎 ササン朝ペルシアの文様について

附属II 西アジア農村の実証的（人文地理学的）研究 班主任 大野

- (1) 大野盛雄 村落構造の研究
- (2)※勝藤猛 西アジア農村の歴史的背景
- (3)※安部喜也 土地および水利用の研究
- (4)◎加納康彦 西アジアにおける家畜の生態に関する研究

附 2 東洋文化

第 42 号（昭和42年3月）

- | | |
|-----------------------|------|
| 比較法史学上の貢献 | 高柳真三 |
| 同治年間（1862—1874年）の条約論議 | 坂野正高 |
| 清代における小作制度について | 今堀誠二 |

第 43 号（昭和42年3月）

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| 中国の人民公社と工場 | 関野雄 |
| ジャワの村落組織についての覚書
——デッサとカルラハンについて—— | 岸幸一 |
| フィリピンの農村構造に関する一考察 | 高橋彰 |
| 太平天国運動 | 西川喜久子 |

第 44 号（昭和43年2月）

中国における出版と検閲についてのノート

- 1930年代を主として—.....今 村 与志雄
1935・6年の「王明路線」をめぐって
—国防文学論戦と文化大革命・1—.....丸 山 昇
左翼作家連盟の成立まで.....竹 内 実
新啓蒙運動について
—1930年代における伝統思想の批判—.....近 藤 邦 康
文化大革命雑感——北京大学の場合—.....古 島 和 雄
北京で見た瞿秋白批判.....新 島 淳 良
書 評
書 感.....西 順 蔵
新島淳良著「毛沢東の哲学」.....加 藤 祐 三
A. Feuerwerker 著「近代中国史への接近」沢 谷 昭 次

第 45 号（昭和43年3月）特集 東南アジア研究の動向と問題点

- 東南アジアにおける農業経済的研究の現状と問題点.....滝 川 勉
日本における東南アジア農村研究.....高 橋 彰
戦後日本の東南アジア政治研究.....萩 原 宜 之
東南アジア研究における歴史学の役割.....生 田 滋
最近における日本の東南アジア経済研究.....山 田 三 郎
シンガポール・マラッカ見聞記.....築 島 謙 三
東南アジア研究をとりまく現状に思うこと.....池 端 雪 浦
実地調査者の役割をめぐって.....青 木 保

第 46・47 号合併号（昭和44年3月）シャマニズム研究

シャマニズムの特質と範型——東北地方における事例——	石津照璽
「巫党来歴」考	泉靖一
楊州巫堂	李杜鉉
ジャカルタのシャマン	吉田禎吾
シャマニズムの起源について	大林太良
シャーマンと精神障害	和田完
評論：新宗教集団の構造とシャマニズム	小口偉一
書評：Studies in Shamanism	堀一郎
アリカ碑文の周辺	橋本秀一
シンポジウム 地域研究の諸問題	

総目録

『東洋文化研究』(1号—11号)・『東洋文化』(1号—45号)

第 48・49合併号（昭和45年3月）沖縄調査

序にかえて	窪徳忠
沖縄における神女とその起源	松本雅明
沖縄地方の士帝君信仰	窪徳忠
沖縄における文化	
—変動本島および石垣島における事例研究—	牛島盛光
門中と村落—今帰仁村与那嶺—	中根千枝
家系からみた沖縄の社会組織	宮良高弘
南島の須恵器	佐藤伸二
沖縄と内地の習俗	原田敏明

第 50・51 合併号（昭和46年3月）インド史再考

- 仏典に記述された古代インドの村落 山崎 元一
ヴィシュヌシェーナの592年碑文にみえる法規定 山崎 利男
村落共同体に関するチョーラ朝刻文 辛島 昇
18世紀マラータ王国における水利問題 小谷 江之
ムッターダーリー制についての一史料 高畠 稔
初期のベンガル統治とウィリアム＝ボルツ 松井 透
18世紀末南インドにおける土地保有関係 柳沢 悠
19世紀中葉ナーシク近辺の一山村に関する二文書 深沢 宏
1857年の反乱に関するファズレ・ハクの回想録 長崎 暢子
1859年ペルガル借地法 多田 博一
南インドのイナーム村について 中村 尚司
インド政府内務省報告（1969年12月）にみるインドの農業問題 大内 穂

昭和48年3月30日 発行

東京都文京区本郷7-3-1

編集兼者 東京大学東洋文化研究所

印刷所 株式会社 三陽社